



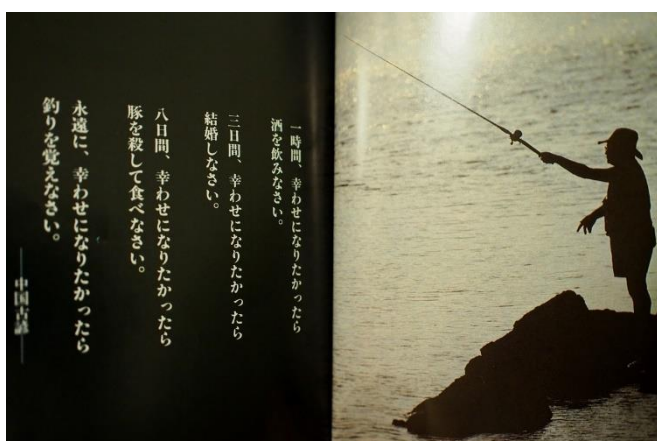
### 多様な幸福論

新型コロナウイルスが多方面にわたり影響し、日常の風景がコロナ禍以前とは大きく変わった感がいたします。最初の緊急事態宣言以来、社会活動が大きく制限され、with コロナの社会へと変化し、それに合わせて私たち生活者の行動や価値観も揺れ動いた1年だったといえます。楽しみにしていたことが十分にできなかった一方、自宅時間・家族時間が増加し、それにともないテレビをはじめとした各種コンテンツとともに過ごした人も多かったのではないのでしょうか。

コロナ禍にあっては、どうしても**アーカイブ番組**や**再放送**の割合が増え、番組構成も大きく変わりました。テレビ**番組の二次利用**の重要性は、今後も高まることが予想されます。

これに伴い、ドラマ・バラエティ・ドキュメンタリー番組をはじめとする番組制作においては、著作権、肖像権をはじめ様々な法的権利だけでなく、**BPO**（制作の外部委託）等放送上のルールが関係するとともに、脚本家、演出家、俳優など多くの人々の許諾を取る必要もあるでしょう。気楽に懐かしんで視聴している私たちが想像する以上に、悩ましい局面が多々あることでしょう。

そんなことも少し気にしながら、秀作のアーカイブの番組を楽しんでいる私ですが、先頃「**開高健の世界 最後の冒険**」は特別な思いで視聴しました。芥川賞受賞作「裸の王様」（よく知られる童話とは似て非なるもの）など、数多くの作品を世に輩出してきた作家・**開高健**。名前も、'80年代に流行ったウイスキーのCMでその顔に見覚えがあっても、作品を読んだことはほとんどなく、没後30年となる今頃、改めて彼が残した名言格言と共に感動して、ドキュメンタリー番組に食い込んだ次第でした。



釣って、食べて、生きて！作家 開高健の世界「最後の冒険 カナダで吠(ほ)える」（2011年）番組でしたが、1988年のこの釣魚冒険収録後に体調を崩し、1年余り後に息をひきとられたということです。ところで、番組の中で、『一時間、幸せになりたかったら、酒を飲みなさい。三日間、幸せになりたかったら、結婚しなさい。八日間、幸せになりたかったら、豚を殺して食べなさい。永遠に、幸せになりたかったら、釣りを覚えなさい』という中国の諺（ことわざ）を、著作の中でも引用しているとのナレーション解説がありました。似たようなフレーズを私もどこか記憶していましたので、調べてみると、彼の代表作「オーバ！」で中国諺として紹介されたのが発端であるということでした。世界には類似の諺も少なからずあるようです。釣りマニアでない方には、こんな秀作（？）もありました。「**幸せでいたいのが一日なら、床屋へ行け。一週間なら、結婚せよ。一月なら、新しく馬を買え。一年なら、新しく家を建てよ。一生涯なら、正直人間になれ（「司祭になれ」の説も）。**」

